

同一科目の教室での対面授業とオンライン授業による 受講生の授業評価の比較

Comparison of face-to-face and online classes for the same subject

阿部 一晴
Issei ABE
京都光華女子大学 キャリア形成学部
Email: i_abe@koka.ac.jp

あらまし：感染症拡大に伴い、本学でも 2022 年度まで多くの講義系専門科目をオンデマンド授業として提供した。2023 年度以降も少数の科目はオンデマンドを継続したものの、従来どおり大学には通学することを基本とし、ほとんどの科目が教室での対面授業に戻った。同一科目の 2022 年度のオンデマンド授業と 2023 年度の対面授業それぞれを受講した学生の授業評価の結果と最終的な成績の比較を通じ、学生の授業形態に対する意識と学習成果の差を確認することを試みる。

キーワード：感染症拡大、講義科目、オンデマンド授業、対面授業、授業評価

1. はじめに

2020 年度期初からの感染症拡大に伴い、大学における授業の方法も大きく変化せざるを得なくなった。2020 年度は様々な混乱の中、試行錯誤を繰り返し、ある意味特別扱いの一年であったとも言える。2021 年度からは感染症ありきとなり、学生が大学に通学することが当たり前ではないことがノーマルという前提での授業運営に移行した。具体的には、実習や演習等対面が必須ではない講義系科目を中心にオンデマンド、リアルタイム等様々な形態のオンライン授業によってカリキュラム提供するようになった。筆者も、ゼミ以外の講義科目をすべて（前期 4 科目・後期 4 科目）非同期型のオンライン授業で提供した。本学では、ちょうど 2021 年度後期に授業支援システムの更新があり、オンデマンド等教室での対面授業への対応が従来よりも容易になる環境が整いつつあったことも助けとなった。

一方、2023 年度は感染症の法的扱い等が変化したこともあり、オンライン対応としていた講義系科目も基本的に従来どおりの対面授業に戻して提供することとなった。上記 8 科目もすべて対面授業とした。このうち、学科の中核専門選択科目に該当する 4 科目は、結果的に両年度でシラバスに記載した授業内容等はほぼ同一で、授業形態のみがオンデマンドか対面授業かという違いとなった。実際には学年が異なるため、意味があるかどうかは何とも言えないが、授業後のアンケート結果の比較をおこなった。

2. 対象授業の受講者数について

筆者の所属する学科は、特定にディシプリンに依存せず、比較的幅広い領域の科目を受講できることが特徴となっている。その中で、筆者はビジネス・経営系科目を中心に担当している。今回比較の対象とした授業科目もそれらの分野に含まれる。表 1 に各科目の受講登録者数を示す。

表 1：年度別科目受講登録者数

	2022年度 (オンデマンド)	2023年度 (対面)
科目A	70	6
科目B	53	23
科目C	42	23
科目D	43	11

本学科のカリキュラムは、必修科目が少なく自由に選択できる科目が多く、各科目とも例年ほぼ同程度の受講者数があるのだが、2022 年度に比べて 2023 年度の受講者数が減少していることがわかる。選択受講対象となる学年全体の学生数は両年度でほぼ同一である。なお、科目 A は受講者少数科目（登録者 10 名未満）として 2023 年度は不開講となった。

3. 受講生の授業評アンケート回答率の比較

本学では、全学統一で授業評価をおこなっているが、筆者はそれとは別に最終授業と期末試験終了後に独自の授業アンケート（オンライン回答）を実施している。表 2 に各科目の回答率を示す。

表 2：年度別受講生授業アンケート回答率

	2022年度 (オンデマンド)	2023年度 (対面)
科目A	52.9%	
科目B	49.1%	52.2%
科目C	38.1%	56.5%
科目D	48.8%	45.5%

この種のアンケートとしては、相対的に回答率は低めではあると考えられるが、オンデマンドか対面かの差異は大きくは感じられなかった。

4. 受講生の授業評価の比較

2022 年度にオンデマンド授業、2023 年度に教室での

対面授業ではほぼ同じ内容を提供した3科目で、授業評価アンケートの結果には科目ごとに大きな違いはなかった。以下に比較的受講生が多く、両年度とも回答率がほぼ50%であった科目B受講生の評価結果を示す。



図1：この授業で学んだことは今後の自分にとって役に立つと思いますか？

一つ目の設問では、授業で学んだことが今後役立つと考えるかどうかを尋ねた。「非常に役に立つ」がオンデマンド54%、対面83%とかなり差が開いた。

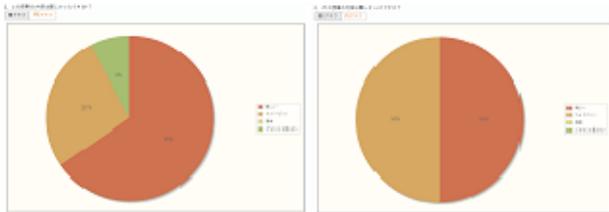


図2：この授業の内容は難しかったですか？

次に授業内容を難しいと感じたかどうかを尋ねたが、この設問も「難しい」がオンデマンド65%、対面50%と少し違いがあった。

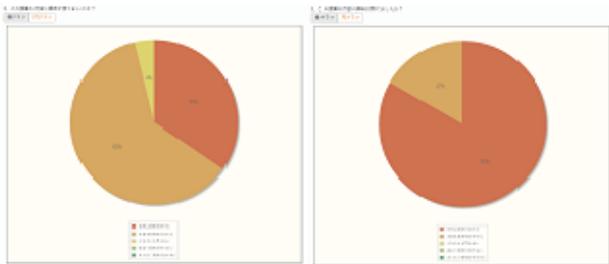


図3：この授業の内容に興味が持てましたか？

次の授業内容に興味を持てたかという設問では、「非常に興味を持てた」がオンデマンド35%、対面83%という回答となった。

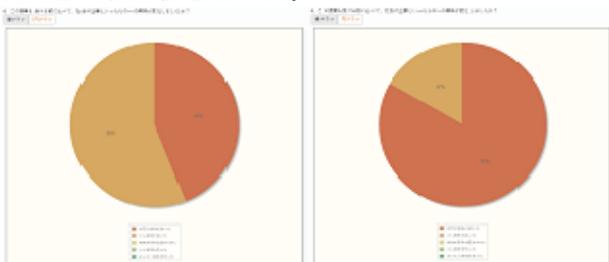


図4：この授業を受ける前に比べて、社会や企業といったものへの興味は変化しましたか？

授業を受けたことで関連分野への興味は変化したかどうかについては、「非常に興味を湧いた」がオン

デマンド44%、対面83%という回答であった。

5. 受講生の成績比較

受講生の授業評価比較の対象とした科目Bの2022年度(オンデマンド)と2023年度の最終的な成績は表3のとおりである。

表3：年度別科目B受講生の成績

	2022年度 (オンデマンド)		2023年度 (対面)	
A+	4	8%	8	35%
A	14	26%	6	26%
B	7	13%	2	9%
C	15	28%	1	4%
D	1	2%	0	0%
K	12	23%	6	26%
合計	53	100%	23	100%

途中で受講放棄した率はいずれの年度もほぼ同じ(当初受講登録者の約4分の1)であったが、最後まで受講して期末レポートを提出した学生の成績はオンデマンドよりも対面授業の方が全体的に大きく上振れする結果となった。成績評価の基準は同一であったので、受講への積極性の差が最終的な成績の差に繋がったのではないかと考えられる。

6. まとめ

今回の授業評価アンケート比較では、回答率が高くないことから、回答が授業に対する意識が高い受講生に偏っていると考えられる。そういった背景を踏まえても、オンデマンド授業よりも教室での対面授業を高く評価する傾向が読み取れた。また、最終的な成績もオンデマンド授業よりも教室での対面授業の方がかなり良いという結果となった。本論で取り上げた科目以外でもほぼ同じ傾向であった。元々オンラインによる授業は、感染症拡大に対する緊急避難的な対策であり、通信制等の特例を除き「大学の授業は教室で実施することが当たり前」という教員側の無意識な常識のようなものは学生側にも同様に受け入れられていると言えるのかも知れない。一方、「対面とは遜色ない内容・水準の授業を提供する」というオンライン化の原則が徹底できていたのか等についても、しっかりと検証していく必要があるのではないかと考えられる。

参考文献

- (1) 阿部一晴, 酒井浩二：“学生の対面授業とオンライン授業に対する評価の比較”, 情報コミュニケーション学会, 第21回全国大会発表論文集, pp.96-97 (2024)
- (2) 阿部一晴：“対面授業とオンデマンド授業の受講生によるクラウド型教育コンテンツへの評価比較”, コンピュータ利用教育学会, 2023 PC Conference 論文集, pp.80-81 (2023)